

## IOSCOは、資産運用会社に対する規制・監督上の期待値を設定することが、グリーンウォッシングの懸念に対処するための基本であると提言

証券監督者国際機構（IOSCO）の代表理事会は、本日、資産運用におけるサステナビリティ関連の実務、方針、手続及び開示に関する一連の提言を公表した。

IOSCOの議長であり、香港の証券先物取引監察委員会（SFC）のCEOであるAshley Alderは、次のように述べた。「サステナブル・ファイナンスのエコシステムにおいて重要な役割を担うアセットマネージャーは、投資家が投資目的を達成するために大きな役割を果たしている。アセットマネージャーがサステナビリティに関する重要なリスクや機会を考慮し、意思決定プロセスに組み込み、開示する方法に関する規制上のガイダンスは、投資家が自分の投資の影響を理解することを可能にする。」

近年のESG投資やサステナビリティ関連商品の拡大に伴い、一貫性のある、比較可能で意思決定に有用な情報の必要性の高まりや、グリーンウォッシングのリスクなどの課題が生じている。2021年6月に公表された市中協議文書に寄せられた意見を反映した本報告書は、こうした投資家保護の課題に焦点を当て、「アセットマネージャーの実務、方針、手続及び開示」「商品情報の開示」「監督と執行」「用語」「金融・投資家教育」の5つの分野を取り上げている。

本報告書では、投資業界がサステナビリティに関するリスクと機会を適切に評価できるように第三者機関が提供する、企業レベルのデータやESGデータ及び格付けの信頼性や比較可能性の欠如に関連する課題に対処することの明確な必要性が認識されている。本年6月に発行された「企業のサステナビリティ開示に関する報告書」は、企業レベルでのデータギャップに対処するものであり、11月下旬に公表される別のIOSCOの報告書では、ESGデータ及び格付け提供者に対する提言を取り上げる予定である。

スウェーデン金融庁長官であるErik Thedéenは、本報告書を公表した、IOSCO代表理事会が設置したサステナブル・ファイナンス・タスクフォースの議長を務めている。同氏は次のようにコメントしている。「証券監督者としての我々の共通の目的は、投資判断に重要な情報の透明性と開示を確保することにより、投資家を保護し、市場の信頼性を確保することである。基礎となるデータを改善することは重要だが、アセットマネージャーがサステナビリティ・リスクをリスク管理手順に適切に組み込まない場合や、ファンドのESG特性やパフォーマンスを投資家に誤って説明する場合、それだけでは不十分である。したがって、規制・監督上の期待値を設定することは、リスク管理の誤りやグリーンウォッシングに関する問題に対処するための基本となる。本報告書は、アセットマネージャーが現在の課題に対処することを支援するために、どのような期待値を持つべきかについてのIOSCOの見解を示している。

グリーンウォッシングとは、アセットマネージャーが自らのサステナビリティ関連業務や投資商品のサステナビリティ関連の特徴を偽って表示する行為を指す。このような行為は、募集要項に使用されている特定の

サステナビリティ関連用語の不適切な使用から、企業のサステナビリティ関連のコミットメントに関する虚偽表示、商品のサステナブル・インパクトを意図的に誤認させる欺瞞的なマーケティング活動まで、その範囲や重大性は多岐にわたる。

本報告書の提言は様々な分野を取り上げているが、その全てがグリーンウォッシングの防止に役立つ。例えば、サステナビリティ関連商品の重要なリスクの開示に関する要求事項は、投資家が商品に関連する潜在的なリスクと、それらのリスクが製品のパフォーマンス（サステナビリティ関連のパフォーマンスを含む）に与える影響をより良く理解することを可能にすることで、グリーンウォッシュの防止に役立つ。同様に、サステナビリティ関連商品の名称に関する要求事項は、その名称を通じてサステナビリティ関連であることを示す商品が、サステナビリティに焦点を当てていることを正確に反映していることを保証することで、グリーンウォッシングの防止に役立つ。

また、提言は、サステナビリティに関連した金融・投資家教育の取組みを支援することや、この分野の要求事項の遵守状況を監視・評価し、当該要求事項の違反に対処するための適切な監督・執行手段を確保することなど、他の分野を通じてグリーンウォッシングのリスクに対処している。

(Notes to the Editor は省略)

(以上)